



靖国神社遊就館 (宝物遺品展示館) [関連11頁]



マーシャル方面遺族会

(旧クェゼリン方面戦没者遺族会)  
〒103 東京都中央区  
日本橋人形町1-8-2  
電話 03-661-8760  
振替口座東京 0-93487 番  
編集兼発行人 佐藤宗丕

昭和六十三年

慰霊祭と総会の御案内

会長 佐藤宗丕

明けましておめでとうございます。

全国の会員並びに会友の皆様にはお健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本会恒例の慰霊祭と総会を次の通り行いますので、お知り合いの方々をお誘い合せ御参集下さい。

日 時 昭和六十三年二月十四日(日)

午前九時集合 靖国神社参集所

慰霊祭 午前十時 昇殿参拝

定期総会 午前十一時 参集所

△議題 諸報告 会務計画 予算▽

※慰霊祭は御家族お揃いで参拝できるように、一昨年より二月の第二日曜になりました。

同封の私製はがき(料金本会負担)は、会員名簿作成の資料としますので、慰霊祭に参加しない方も、必ず全欄御記入の上一月十五日迄にお送り下さい。

◎九段会館に宿泊を希望される方は、同封のはがきで、一月十五日迄に本会にお申込み下さい。料金は一室五人の相部屋で、一泊二食付一人七、三〇〇円の特別価格です。本会が受取った申込みは九段会館に取りつぎますので、申込後の取消し、変更等は、直接左記に連絡下さい。

〒102 千代田区九段南一六―五

九段会館 宿泊部(電話03―261―5521)

その時は本会にもお知らせ下さい。

◎直会(なほらい)旅行会を、本会企画・日本交通公社主催により次の通り実施します。

今回はNHK大河ドラマ「武田信玄」の国、風林火山の甲州路です。(以下16頁へ)

目次

昭和六十三年慰霊祭と総会の御案内 会長 佐藤宗丕……………1  
紀元節をめぐる感想  
東京大学教授 小堀桂一郎……………2

南太平洋の経済開発  
キリバス共和国 栗林徳五郎……………3  
名譽 領事 栗林徳五郎……………3  
マーシャル群島の回想  
……………安東 正夫……………5

私の記録から……………北原ひで子……………6  
現地慰霊を希望する方々へ……………7  
お便りの中から……………8  
大町 末子・植川 二男……………8

“環礁”談話室……………9  
浄永 孝・野田 雅子……………9  
松下 綾・草場 マキ……………9  
奥山 キノ・前田 利明……………9  
渋谷セキノ・高橋 克麿……………9  
吉田 よね……………9

浮田名誉会長に感謝状……………11  
遊就館拝観のおすすめ……………11  
ウオッセの写真帖……………11  
△スケッチ▽ マロエラップに……………11  
眠る零戦 高橋 克麿……………11

クェゼリンでお世話になった方々へ 御礼……………12  
戦地からの便り……………鈴木つな子……………14  
本部だより……………15

◎会員名簿を作りませ……………15  
◎ハワイの御三方の住所……………15  
◎タラワの慰霊碑のその後……………15  
寄付者芳名……………15

直会旅行のつづき……………16

# 紀元節をめぐる感想

東京大学教授 小堀 桂一郎

△この論説は小堀先生並びに、明治神宮・同崇敬会の御好意により、同会会報「代々木」(昭和六十二年二月一日発行)より転載させていただきました。▽

間もなく紀元節を迎へる。今はこの日を建国記念の日と呼ぶことになつてゐるが、戦前に小学校の生活を送つた私どもの世代の人間にとつては依然として紀元節である。理屈ではなく、直接的な感情として、この紀元節といふ名を以てこの祝日のことが念頭に浮ぶのであるから、これは如何ともし難い。どうしてさういふことになるのかといふと、そのわけは多分にあの紀元節唱歌の持つ詩と音楽との力によるのだと言つてよささうである。

十二月号の本欄で勝部先生が明治節の歌について書いてをられたが、恰もそれと同じことで、紀元節の儀式の晴れがましい思ひ出はこの唱歌と切離し難く結びついてゐる。といふよりもこの唱歌のこともし出す空気がなつかしい記憶の大部分を占めてゐる。八雲に聳ゆる高千穂の、高嶺おろしに草も木もなびき伏しけん大御世を……で始まる四節の歌詞は高崎正風の作、曲は伊

澤修二で、明治二十一年二月に出来たといふことだから今年で丁度満百年になる。もつとも、儀式唱歌として公式に学校教育に採用されたのは明治二十六年といふから、爾後昭和二十年に最後の紀元節が祝はれるまで、式典唱歌として歌はれたのは五十余年にすぎない。昭和四十一年に建国記念の日が新しい祝日として制定された時、日は同じく二月十一日でも、この様に名前が違つてしまつたのだから、儀式唱歌としての紀元節の歌は復活する術がなかつた。だいたい建国記念の日は式典日ではなく、国民の祝日といふ、法で定められた単なる休日となつてしまつたのだから、この唱歌は小・中学校等で儀式唱歌として歌はれる機会を最早得られないことになつてしまつた。明治

時代に作られた、多数のすぐれた唱歌(それらは現在岩波文庫の『日本唱歌集』といふ甚だめでたい書物の中に、大正期、昭和初期の作品と共に収録されてゐる)が今は忘れられ、ほとんど歌はれなくなつてしまつたことが惜しいのと全く同じ意味で、これは実に惜しいことである。

昭和二十年秋の米軍による日本占領といふ非常事態の下で、紀元節といふ

祝日を国民が祝ふことは強権を以て禁止されてしまつた。それは敗戦国として已むを得ない次第であつたが、講和条約の発効、独立の恢復と共に紀元節は直ちに復活して然るべきであつた。ところがその実現までに十五年余の時日を要したといふことは、今顧みて、随分異様な気がする。

昭和三十二年に祝日改正法案が国会に上程されると、以後十年近くの間、これは「紀元節復活問題」として毎年囂しい話題になつたのだが、その頃大の道に入つた私は、周囲の歴史学者達の大部分が呈してゐた異様な反応、むしろ昂奮の状をよく覚えてゐる。もちろん彼等は紀元節の復活に反対といふ見解を打出してゐたのだが、その論拠は、紀元節には学問的実証的根拠が無い、といふものだつた。

これはもう過ぎた話であるから、今更改めて話題にしなくてもよいことかもしれないが、一方現在でも民間の奉祝式典の在り方をめぐつて、式日としての意義に合理的根拠があるのか、などの議論が持ち出されることがある。そこでほんの一言これについての意見を書きつけておきたい。

紀元節の日付に学問的根拠があるかないかと問ふこと自体が、既に甚だ学問的でない、物を知らぬ人の言ふ事なのである。もし学問的実証的根拠如何といふのならば、既に今から二百年余

りも昔のこと、本居宣長が『真暦考』(天明二年)といふ著述の中で、『日本書紀』には神武天皇が辛酉の年春正月朔の日に橿原宮で即位、といふ記述があるが、当時はそもそも暦といふものがなかつたのだから、これを現実の年月日を指したものと思つてはいけないう、『書紀』を読む学徒はそのことによく留意してこの記述を扱ふ様に、との注意を与へてゐる。つまり(浅学の私が知る限りこれが一番古い例なのだ)合理的根拠云々の問題は十八世紀の末葉には夙に解決されてゐて、答はきちんと出てゐる。今更こんな問題をむし返して論じてゐては徳川時代の国学者にも笑はれるだらう。

もし学問的根拠を問ふとなれば、全キリスト教世界にあまねく定着してゐるクリスマススの日付にも、実証的根拠のないこと神武天皇の即位と全く同じである。お釈迦様の誕生日とされてゐる花祭も同じく教義上の設定にすぎない。神武天皇御即位の年月日が、西暦八世紀初頭に当る『日本書紀』編纂当時の推算で、それを太陽暦二月十一日に換算して式日としたのが明治七年、といふ経緯は、実はキリスト教会によるクリスマススの算定、制度化といふ次第と、年代の古さの点をさて措けば、手続的にはよく似たものなのである。それでは洋の東西を問はずこれらの式典日を式典たらしめる根拠はいつたい何か。(11頁へつづく)

# 南太平洋の経済開発

キリバス共和国  
名誉領事 栗林 徳五郎



これは、本会顧問の栗林様が、昭和六十一年十月七日、大蔵省関係の社団法人研究情報基金(FAIR)の太平洋専門研究会で行った講演の要約であります。

今回、太平洋研究のご専門であられる皆様方の集いに、私のような一貿易商人が選ばれたことは、光栄の限りでございますが、皆様方のお時間を拝借したお礼に、最後に玉手箱のふたを一つ開けることにしたいと思います。

昭和十八年ごろ、当時の海軍将校・小西大佐という人が、南洋時事問題について講演をした本が私の手元にあります。この小西大佐という人は海軍大学を一番で卒業し、当然米内大臣、山本大将の跡取りと目された人で、当時の太平洋戦略を作ったという大変な秀才の方のようです。この方が次のよ

うなことを言っています。

「南洋群島は、国防上必要だけれども、委任統治領で防備はできないし、産業上はヤシがあるくらいで何もならぬ。水産はというと、大正四年ごろ、各方面の学者を集めて調査をしたところ、南の海は水が澄んでプランクトンがない。南洋興発も初めは水産をやりに南洋に行ったが、とても水産には向かない。何か手土産にと、地元の人を作ったサトウキビのサンプルを持ち帰った。これがやつと芽をふいた。カナカの産業は何かといえ、コブラとタカセ貝くらいのも。そんな所は不経済だ、売り払ったらどうかという意見が大蔵省あたりから出された。たまたま私は海軍大佐で、太平洋戦線の戦略研究をし、『海の生命線、わが南洋』というスローガンを掲げ、南洋群島脱却論から脱出したのです。」

私がこのやや長い小西大佐のスピーチを引用させて頂いたのは、現代の南洋においても、これと全く同じ状態の経済問題が存続しているからです。広大な海の上に浮かぶ底の浅いこの経済を、どのように活性化していくかが一番大切なことです。

一五二二年、マゼランがマリアナ群

島を発見、一六六〇年にスペインがこの地方を植民地化して以来四百年の間南太平洋はヨーロッパ人の統治下にありました。わが日本人がお出ましになったのは、約四百年遅れて一八九〇年(明治二十三年)に、やつと天佑丸という南洋貿易のわずか九一トンの船がヤップ、グアムに出かけて行ったのが始まりです。

一九一四年(大正三年)の第一次世界大戦には、日本海軍が南洋群島を占領、これを期に南洋貿易、南洋興発をはじめ日本の企業、日本人の移住が一挙に始まりました。最盛期には、島民が五万人に比し日本人が八万人に達しております。

これに対し南洋、現在のオセアニア方面はヨーロッパ人の植民地であったために、日本の企業、日本人の移住は大いに制約され、内南洋(南洋群島)との差は歴然たるものがありました。たとえば私が名誉領事をしているキリバス(ギルバート諸島)などは、一切外人の居住は認められず、南洋貿易の神崎さんという人が、現地の方と結婚してやつと営業権を得られました。第二次世界大戦の終結(昭和二十年)で、日本人は全員南洋から引き揚げ、すべての企業は破滅しました。

しかし、この四十年間に、日本人が南太平洋に残したものは何であったのでしょうか。それは、白人の植民地であった南太平洋全域にわたり、アジア

人である日本人が種々の生産事業を振興し、また内南洋にはたくさん日本人の血と日本語と文化を残しました。ミクロネシアのナカヤマ大統領をはじめ多くの指導者は、日本人の血を分け合った同志です。日本がこの期間を通じて、やつと太平洋民族の仲間入りができたということです。

現在、南太平洋は約二十の国(経済水域)に分かれております(独立国キリバス、トンガ、フィジー、PNG、ソロモン、ツバル、バヌアツ、西サモア、ナウル▽米領信託統治ミクロネシア連邦(FSM)、マーシャル共和国、パラオ▽米領自治グアム、サイパン、アメリカンサモア▽英国領ピットカーン▽フランス領タヒチ、ニューカレドニア、ウオリス&フツナ▽ニュージーランド領クック、ニウエ、トケラウ)。

人種は、ミクロネシア(小さい意)、ポリネシア(多くの意)、メラネシア(黒い意)の民族です。皆さんが向こうに旅行なさる時、現地の人を呼ぶ時に島民(ISLANDER)と言うようにと旅行案内には書かれておりますが、私は何かこの言葉は、独立国の民族を呼ぶのにふさわしいとは思っておりません。私自身は、島民という言葉は使わずに、ミクロネシアの人とかキリバスの人とか呼んでおります。ニューギニアでは、EXPATRIATE E(外来者)に対して、自分達をNA

TIONALと呼んでおります。

また皆様方は、環太平洋研究会というものをおつくりですが、環太平洋とは R I M O F T H E P A C I F I C という意味で、太平洋の縁にある大国のみを意味するのではないのでしょうか。これもふざわしい言葉とは言えません。英語で言う P A C I F I C B A S I N (たらいの意味に太平洋全体)に相当するよい日本語があればと思います。

さて話は前に戻り、太平洋で一番大切な経済の話を見せて頂きます。私は、白人に支配されたこの時代は、南太平洋には本当の意味の産業はなかったと思えます。この間に存在したのは、いわゆる植民地産業です。

たとえば、皆様が南洋で見られるたぐさんのヤシの木、あれは単なる南洋風景のアクセサリーではなく、彼らにとって生活の基をなす米やミルクにあたるものです。ヤシの実を乾かしたものをコブラと言い、そのコブラは油を作るためにイギリスや日本に輸出されます。値段はすべて先進国の言いなりで、高い時は一トン七〇〇ドルもしたものが、今は三〇〇ドルくらいです。漁業にしても大手漁業会社の缶詰工場が主体で、缶詰の値段が下がると、港や冷蔵庫は閉鎖されます。

銅やニッケル、コーヒー、ココア、木材のすべての生産は外国のマーケットに支配され、彼らがなすべき何もの

もありません。

たとえばキリバスは、一九七九年に独立した人口六万人の小さな島々の集まりですが、ここでとれた年間二十億円のリン鉱石はすべてイギリス本土に持っていかれ、このリン鉱石が枯渇した時は、イギリスの援助は打ち切られました。

キリバスがどのくらい貧しいかを、たびたび人に聞かれますが、たとえばキリバスの全生産量はコブラ、魚を主体に、全部入れても年間六億円足らずです。松下幸之助氏の所得を六万人で分け合っているということで、皆さんは納得してくれませう。

すべて南洋の経済の規模はこの程度のもので、よく私も南洋に輸出ばかりしないで、輸入をしたらどうかと忠告を受けますが、日本の経済単位とかけ離れ、何をやっても引き合いません。

これに対して隣のアメリカ信託統治から独立するミクロネシア地区は、三〇億ドル(約千五百億円)のお金が基礎生活産業費として支給されます。

ただし内政・外交は自主的にやってもよいが、戦略に関する外交は、アメリカの許可が必要という条件つきです。一言で言うと、アメリカについたほうが、どんなに有利かという実例になるでしょう。

これら南太平洋には、植民地政策の名残という E X P A T R I A T E (外国人指導者)がいまなお在任して、実

際上の経済・政治・事業などに携わっておりません。我々が何か仕事の相談に行った場合、彼らの存在はあまり協力的なものではありません。我々はほんとうに太平洋民族の仕事を考えて話合っているのに、彼らにしてみれば、自分達の縄張りにあまり口を出すなということなのでしょう。

しかし今は、日本の経済力と技術がなくては、自分達の力では将来の太平洋を賄えきれないことは、十分に認識するようになりました。なぜなら、太平洋はもはや自由圏諸国のみ(ブラザ(広場)ではないから)です。このような南太平洋の経済不振の間隙をついてソ連、中国などの共産圏側の積極的な外交が繰り広げられ、自分達も太平洋民族の仲間入りを見せてくれと、援助や協力を始めました。

今ここで私が声を大にして言いたいことは、今こそ太平洋諸島の国々は、植民地事業から民族事業に転換しなくてはいけないということです。日本人が P A C I F I C N A T I O N (太平洋民族)に自ら参加するためには、次のような事業的役割が必要であると思えます。

#### 一、太平洋航空路線

これは、グアム、サイパンに J A L が就航してから、この地区がどんなに栄えたかの一例をみても分かります。広い太平洋を飛び回り交流を深めるためには、航空路線

#### 二、国際海洋センター(漁業センター)の設立

日本人は海洋民族であり、また太平洋における海洋先進国であります。我々はこの特性を生かし、太平洋のどこかに国際海洋センターを造り、漁業をはじめすべての海の産業に当たらなければなりません。これが地域産業開発の基盤です。

#### 三、太平洋会館の設立

日本は太平洋における最大の経済国であり、オーストラリア、ニュージーランドを含めてすべての太平洋諸国は、日本の経済力に絶大な期待を寄せております。しかるに日本は、太平洋の主流たる会議の S P C (S O U T H P A C I F I C C O M M I S S I O N)、S P F (S O U T H P A C I F I C F O R U M) のメンバーにすらなっておりません。日本は東京に太平洋の会館を造り積極的にミーンティングを持つべきだと思えます。

#### 四、太平洋は船のパラダイスです。

日本で今、造船不況などと言っておりますが、もし太平洋に必要な船を供給するとすれば、日本の造船不況はふつとび、太平洋の人々にどんなに喜ばれるかしれませ

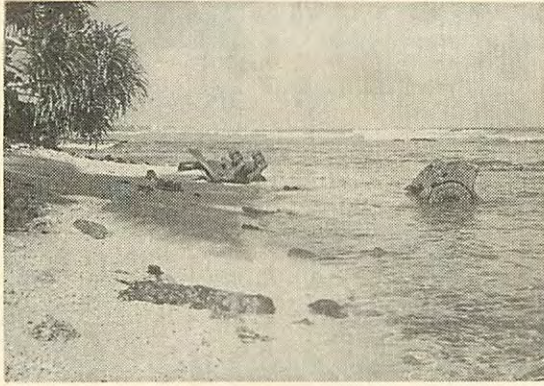
最後に、私が最初にお約束した、玉  
手箱のふたを開けましょう。

それは、パシフィック・スペース・  
センター宇宙ロケット基地です。最  
近、私はこのスペース・センターは、  
赤道上が最も適していることを知り、  
これを各国の指導者に流したところ、  
大きな反響を呼んでおります。

このスペース・センターは、太平洋  
民族すべての共有財産として所有しま

### マーシャル群島の回想

安 東 正 夫



マジュロ東部、飛行機の残骸

す。光、熱、空間、海、そして「位置」  
こそ太平洋民族の最大の財産です。こ  
のことはソ連、アメリカの強大国の勢  
力を均衡化するためにも、世界平和を  
つくるためにも、一番よい方法ではな  
いかと思います。これが太平洋民族の  
文明意識を高め、ほんとうの意味で、  
世界の動きは太平洋時代に突入するこ  
とになるでしょう。

(南洋群島協会々報159号より転載)

南洋群島の遙か東の果て、わが国の  
委任統治領が曾てここにまで及んでい  
て、大戦後期には玉砕・死闘が行われ  
たのを想うと感無量なるものがある。

昭和十九年二月、占領中だったギル  
バート諸島(タラワ、マキン、アバマ  
マ各島)に続いて、ここにも圧倒的な  
物量を持つ米軍の来寇を受け、当時の  
発表によってもクエゼリン環礁(秋山  
門造海軍少将、阿蘇太郎吉陸軍大佐以  
下四八〇〇名)、ルオット島(山田道行  
海軍少将以下二五〇〇名)が玉砕して

おり、実際には更にブラウン環礁(エ  
ニウエトク島)(西田祥実陸軍少将以  
下二七〇〇名)、ウオット島、アイリ  
ングラップ島も後を追っていたので  
あった。こうして主に群島西部(レリ  
ック諸島)は侵されたが、主島のヤル  
ートはじめミレ、ウオッセ、マロエラ  
ップ(タロア)各環礁等の群島東部  
(ラタック諸島)の要衝は、クサイ島  
共々に、空襲と補給途絶の為に大きな

被害を蒙りながらもよく終戦まで耐え  
抜いたのである。

私たちは戦前から、マーシャル群島  
といえはヤルート島が名実共にその中  
心であるものと思っていた。このヤル  
ート島が玉砕せずに自活して持ちこた  
え得たのは、せめてもの救いと言えよ  
う。(もともと終戦後に、同島の警備  
隊司令升田仁助海軍少将は「戦犯」責  
任を負って自決されているが)

いまマジュロの博物館にヤルート島  
終戦時の日本軍軍使と米軍の出会いの  
写真が飾られており、帯刀した若い海  
軍士官と陸軍憲兵下士官(と思える)  
が写っているが、この写真が真物とし  
て、殊にこの海軍士官は昨日まで玉砕  
か飢餓に瀕して決死の戦さをしていた  
とは全く思えないような実に清朗で温  
和、しかも凛々しい姿である。今は日  
本人の男性からこういう美しい顔が失  
われてしまったことに気付いた気がし  
て懐しかった。この方々が健在であれ  
ばお目に掛りたく願う。

一方、現在の首都になっているマジ  
ュロ環礁には昭和十七年初期に哨戒用  
の水上機基地が置かれ、ヤルート(イ  
ミエジ)基地から若干の要員が派遣さ  
れていたが、同年八月にミレ島基地の  
完成と共に移駐しており、米軍には  
無血占領がされているので陸上戦闘  
はなかった。米軍にはこの礁湖を艦  
隊泊地として利用され、後にトラック  
パラオ方面へ来攻の基地とされてしま

ったのは口惜しい。  
もともとこのために戦後マジュロ環  
礁にマーシャル群島の首都が移された  
ものかどうかは定かでない。いまヤ  
ルートは「ジャルート」と呼ばれてい  
るようで、昔日の賑いはなくなってい  
まったらしい。ここから移って来た人  
に何人かマジュロで会ったが。現在の  
マーシャル群島への航空路は、途中で  
クエゼリンに立寄ってマジュロに通う  
ようになってきている。(クエゼリン環礁  
は現在米軍のミサイル実験場となつて  
おり、コンクリートで固めた人工島さ  
ながらの観を呈している。)ヤルート  
はじめ各島にもマジュロから小型機が  
運航されているが、スケジュールの  
関係で通常の旅行では訪れるのが難し

い



マジュロ・ローラ村の日本海軍の記念碑と筆者

い。筆者も断念した。

マーシャル群島は「真珠の首飾り」の呼び名が相応しく、低平で細長い美しい環礁から成り、この地勢はどの島にも大體似たように見える。このような島々では大軍で上陸されればすぐに分断されてしまうであろうし、陣地は深縦には取れず、壕も（水が出てしまつて）深くは掘れずしかも腐食土が少なくして農耕にも適してはいないようであるから、日本軍も守るにはどれ程か辛く切なかつたことであろうかと苦悶のほどを思んだ。

マジュロ環礁にも何個所かに日米の飛行機の残骸が残っている由で、旧飛行場近くの海岸のそれらしい所に行つて見たが、戦闘機らしい飛行機のプロペラと機体のごく一部（対空機銃のようにも見える）が顔を出しているだけで、既に風化し切つて、日米いずれのものかさえ判らなかつた。

時代は大きく遡るが、このマジュロ環礁西部のローラ村には意外にも大正八年に旧海軍が建立した「聖善記念碑」がいまも殆ど無傷で残っている。当時台風の被害を受けたのを日本軍が助けたことにより島民が順良になり、忠孝の道を教えるに足るようになった、という趣意が読める。今ではもう島民の中でもこの文字が読める人は少なくなつたであろうし、訪れる人も稀のようである。それに、もうこの当時の直接関係者で存命している人も少なくなつ

ていることであろう。それなのに、この碑の周辺は綺麗に掃除されて、お供え物までもしてあつたのに驚かされた。

日本とマーシャル群島との有為転変のかかわりの始まりの一点がこの地にあつた。以来茫々七〇年近くの歳月を隔てて、その子の世代である私は、外国人としてこの地を訪れ、この碑に抱き寄つたのである。往時の「酋長の娘」の姿や、いまいずこに求むべき。

（南洋群島協会報一五六号より転載）  
マーシャル群島の回想への

### 追記

この小文にある、マジュロ博物館の写真については、その後一人心当りを教えて下さつた方があり、手掛りを照会しようと思つていた所へ、この度、佐藤マーシャル方面遺族会会長からお便りを寄せられて、いま心が躍る思いである。

実の所、あの写真の二人の日本軍人は、余りにも軍装が綺麗な上に陸軍下士官の半長靴や極度に長大な軍刀が多し自然にも感ぜられ、もしかしたら米軍が後で二世でも使つてゝ演出したのかも知れないとの疑いもあつた（海軍士官を見た時、以前に新東宝にいた和田孝という軍服の似合う美男俳優を思い浮べた）。その後、戦史を調べて、ヤルト島での奇跡的ともいえる秩序や士気は同島の升田仁助海軍

少将の至誠の人徳によつて現実のものであつたのを知つたのであつた。

### 私の記録から

（ウオッセ島）北原 ひで子

マーシャル群島のマジュロ空港を発つた小型機はいま、ウオッセ島に向つている。今日は昭和60年3月10日。忘れられないあの日からもう41年の歳月が流れた。

マジュロを発つて既に一時間、雲の切れ目から、これも雲か、とまごう真綿を引き伸ばしたような一すじのものが目に入る。環礁か？ ウオッセ環礁かと目を凝らして見入っていると、その線は白とグリーンの弧となつた。

ウオッセだ、と心も踊るばかりに機窓に額をすりつけて見ていると、だんだん島となり、地図で見た勾玉の形となつて拡がって来た。青い大海原の真只中に浮ぶ珊瑚礁、ウオッセ島であつた。椰子林を眼下に機は間もなく草の生い繁つた広場に着陸した。

不意の飛行機の着陸に島民たちが集まつて来た。

昭和19年9月、夫はこのウオッセ島で戦死したのだつた。同行の遺族は七名、それにマジュロ在住の本会篤志会員の山村様御夫妻が同行してくれた。

この島の滞在時間は二時間と言う限られた時間である。私たちは急いで行

動を開始した。

当時滑走路だつたといわれるコンクリートが残っている所に荷物を入れて携えて来たアイスボックスを置き、その上に日章旗を掲げて祭壇を作り花輪を飾つた。日本から持参したローソクを灯しお線香をあげた。飢餓に苦しんだ英霊たちのために、それぞれ故人の好きだつたものを供えた。塔婆もなく僧侶の説経もない中で、遺族を代表して栗原さんが慰霊の辞をのべられ、私が追悼の言葉を捧げた。最後に皆で「海征かば」を合唱したが声がとぎれ勝ちだつた。

御霊前のお供物と、日本から持つて来た島の子どもたちへのおみやげを、ヤマムラさんを経て島の代表の方へ渡した。この島は羽田飛行場の約半分の広さで、住民は現在300人位だと聞いた。

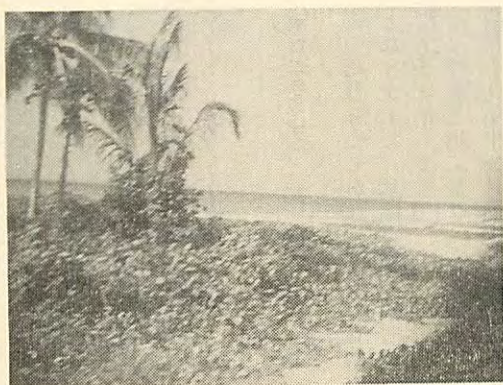
島民は皆服装も小ざつぱりしていて行儀もよく、手を振つたり日本式にちよこんとお辞儀をしてくれる。日本統治領時代には学校もあり、日本から先生も来ていたと言われる。

同行の方達は、島の南の方の陸戦隊の墓のある所まで行かれることになつたが、私がかねて戦友の方から地図で教えていただいた、夫の戦死されたと思ふあたりをヤマムラさんの奥さんに案内されて尋ねた。この方は日本の学校で学んだとのことで日本語をよく話され、日本軍の勇敢さと、温情を讀え

た。戦争がいよいよ激しくなった頃は島民は他の安全な島に移されたと言

う。  
島の西北部へ行く。所々に島民の小さな住居があって、この不意の来客を笑顔で迎えてくれ、握手したり目の前で椰子の実を勢いよく切ってご馳走してくれた。ヤマムラさんの通訳でお互いの心が通じ合うのがうれしかった。私達の来島が予告なしだったので、髪の花輪も、レイも間に合わなかったことを詫びているらしかった。私も好意がうれしくて礼をのべた。

海に突き出た当時の棧橋を左に見て行くと、一面の椰子林だった。トーチカ、コンクリートの防空壕は40年前の弾痕を残し、裂けているが往時の姿を



夫が歩いたであろう、ウオッセの浜

留めていた。監視塔は無残に壊され、弾薬庫、冷凍庫、発電所など、露出された鉄筋が飴の如く曲がり、残骸を晒している。艦砲射撃と空からの爆撃で爆弾の大穴が至る所地を抉り、又盛り上っていて草が生え椰子が実っている。厚さ10センチ以上もあるかと思われるコンクリートが飛び散ったまま朽ちた枯葉を乗せている。小さな防空壕の蛸壺は総て没しているが、戦の凄さが窺われる。食糧も全くなかったこの中でどうして生きることができようか。

私はかつて夫が歩いたであろう浜へ行った。何と美しい海であろうか。珊瑚礁の遠浅の浜は白く輝やき、エメラルドグリーン色の海に向こうに紺碧の大洋が果てしなく広がっている。この海を見、夜は月を眺め、星を仰いだであろう夫のことが偲ばれる。まだ空襲が少なかった頃の便りに、

海が美しい、遠洋航海の時の話は君にもしたことがあったね、戦時下の今も南の海は何とも言えぬ美しさです。君に見せたいと思う、送ってあげたいが然うもならず、あの一節が思い出される。私は写経、追悼文、子供や孫たちから預って来た手紙を故郷の水と共にこの海に注ぐ。そして瓶にこの海水を掬い、浜の霊砂を袋にとった。

残された僅かの時間を飛行機に戻る道々、咲いている野の花を押し花にと

摘んだ。

二時間はほんの束の間であった。間もなく再び機上の人となって、手を振る島民に送られて島を去る。今歩いたウオッセ島を眼下に見ながら機は次第に高度を上げて遠ざかる。

緑の島は次第に弧となり、遂に線となって視界から消えた。

私はウオッセの青い海をいつまでも眺めていた。

## 現地慰霊を希望する方々へ

実施の時期、行先等の詳細は厚生省から正式の発表があるまではわかりませんが、本年の会報は次回は7月1日発行なので、その時発表したのでは参加の申込み締切り日が切迫していると考えている余裕がないかも知れません。

本会は、一人でも多くの方が参加されることを望んでおり、参加を希望する人の参考として61年度に実施された事例を御紹介します。

前回は61年8月25日東京に集合、帰ってきたのは9月1日でした。

慰霊団全員が、59年にマーシャル群島のマジュロ島に国の手で建立された東太平洋戦没者の碑の前で合同追悼式を行い、そのあとで、マロエラップ、ウオッセ、クエゼリン、マキン、タラワ等のうち、縁故の島をたずね慰霊し

検閲の吉岡の印くつきりと夫の戦地の手紙も古りぬ

ウオッセの浜の白砂わが部屋に一年おきしを夫の墓に撒く

夫の霊宿るかと思ひウオッセ島に摘みし押し花しばし見つめる

(二)338 浦和市南元宿二三八―三

ました。

費用は約45万円から50万円で、都道府県の民生主管部から内申され厚生省の認めた者には約三分の一の国庫補助がありました。

本会としてはあらかじめ参加を希望する方を承知しておき、今後この件についての厚生省の発表その他情報、連絡や、都道府県民生主管部への申請などについては、参加を希望することを通知された方に直接お知らせします。本会への通知は2月14日までにお願います。前回の慰霊巡拝の実状は、環礁46号2頁から10頁、47号6頁、8頁10頁を御覧下さい。

何分にも半年以上も先のことなので、その時にならなければわからないという方も、行きたい気持のある方は、参加したいと通知を下さい。

正式申込みのとき断つても、一向にかまいません。

### お便りの中から

(マロエラップ) 大町 末子

桜の花もいつしか散り、早や青葉の頃となりました。私は京都に住んでる大町末子と申します。

兄大町寛之助(海軍二等兵曹)は、昭和十九年十一月二十九日にマーシャル諸島マロエラップ環礁タロア島にて戦死致しました。

私は兄亡き後、両親の面倒を見ながら、今日迄過して参りました。やっと私の子供も一人前になり、思い出されるのは遠い南の地にて悲しく両親の事を思いながら亡くなった兄が可愛いところで、出来れば私の元気な間に行ける所であれば、一度お参り致したいと思いい、厚生省の方にお聞きしましたところ、こちらの方にお聞きしようとの事、それで早速手紙を書きました。お忙しいところ大変勝手とは思いますが様子を知りたく、お便り頂ければ幸いと存じます。(62年5月)

〒616 京都市右京区太秦安井西裏町五

### (第二信)

暑い夏も中は過ぎ秋がすぐそこに来ている様な頃となつて参りました。平素は何かと遺族会にお世話になり本当に有難うございます。

此の度も亦私のお願いを早速お聞き下さり色々皆様にお便りを出して頂き、おかげさまで宮崎県の山内キク様や、福島県の富田みつ様より兄の戦死致しました島のお墓参りや、色々なお話を聞くことが出来ました。これも皆會長様のおかげと心より喜んでおります。

本当にお骨折りに有難うございました。この次マロエラップのお墓参りがございましたら是非一度私の方にもお便り下さいますようお願い申し上げます。

どうかこれからも色々お世話になる事と思いますがよろしくお願い致します。どうか御身御大切に暮らして下さい様に。(62年8月)

(ルオット) 植川 二男

突然の手紙にて失礼致します。私は、熊本県玉名郡築山村出身の故植川一男の弟であります。兄一男は昭和十八年一月に海軍に入り、昭和十九年二月六日に、ルオット島にて玉砕しました。所属部隊等はわかりません。

私も昭和十七年五月一日入団の志願兵で入団の時は兄一男が海兵団迄付き

添って送って呉れ、海兵団の別れが最後でした。

十八年六月水雷学校、続いて大町の潜水学校と進み、十九年一月卒業、ジャワ島スラバヤ第二十一潜水附を拝命はからずもクエゼリン、ルオット島の玉砕の日に岩国港から出港致し、玉砕した兄達の加護があったのか何事も無く無事二十一潜水に着任致しました。

二十年ドイツの降伏後Uボート(伊五〇五潜)に乗り組みましたが、まもなく終戦その後二十二年二月帰還するまで現地にて輸送船に乗り組み奉公して参りました。

私達潜水艦関係生存者は昭和六十年十月に佐世保鎮守府潜水艦合同慰霊碑を建立して毎年慰霊祭を行い英霊をお慰めしておりますが、マーシャル方面遺族会の有るの不知らず本当に残念に思っております。

昔、私の父が生存中に一度会からの便りを見た様に思いますが、父が亡くなってからは調べるすべも無く命日には供養はして参りましたが、亡兄には本当に済まなく思っております。

私の気持を一篇の詩に託し命日には仏前にて吟じております。その気持が通じたのか、今年一月十二日の熊本新聞にクエゼリンの生存者の方が戦友を捜しておられましたので、早速電話してお話しを色々とお聞きしました。其の後先方の方から電話が有りました色々書類を借り調べているとの事でした

ので出来たら関係の処をコピーして送って頂けるようお願いいたしました。その本そのまま送って下さり今拝読しております。

生存者の方は、熊本県下益城郡中央町佐俣四 吉武泰明君です。

吉武氏は昭和十九年一月迄クエゼリン島におられて機雷学校に入校されて命拾いされた方です。

吉武氏の話では、クエゼリンの総指揮官、海軍少将、秋山門造閣下の娘さん土田とし子様は熊本市帯山四丁目二八―二二にお住いの事です。その土田様からお借りした、マーシャル方面遺族会名簿と環礁を今私がお借りして拝読させて頂いております。

遅れ馳せながら兄始め戦友の為に遺族会に入会させていただき度々お願い申し上げます。出来ましたら会員名簿と環礁全号をお送り頂き度々お願い致します。

一金二万円同封致しましたので、余りましたら今後の会費にお使い下さい。勝手なお便りですがどうか宜ろしくお願い致します。

〒602 熊本市電田町弓削四七四―一





# 談話室

環礁

こんにちは、おげんきですか！

- ① 自己紹介、家族の状況
- ② 心に残る思い出
- ③ これからしたいこと
- ④ 会に対する要望
- ⑤ その他何なりと

(エビゼ) 浄 永 孝

残暑きびしい折、お変わりございませんか。  
お伺い申し上げます。

マージナル方面遺族会の会長様始め  
幹事の皆様大変お世話様でございます。

尚この度佐竹様副会長お受け下さい  
まして有がとうございます。色々と大  
変な事と存じますが遺族の為にご健康  
に留意下さいまして宜ろしくお願い申  
上げます。

私事でございますが朝のNHKのテ  
レビ「チョッちゃん」で先日の要さん  
出征のシーンでは四十四年前を思い出  
して、見て居られませんでした。  
あの時代は当然の事でしたのに、時  
代で人の心も変わるのでしょいか、今だ  
ったらあの時の気持ちになれません。  
私の近況をお知らせします。

昭和59年7月迄世田谷船橋で鮎店を  
経営して居ります長男のお店を手伝っ  
て居りましたが、身体の具合を少し悪  
く致しまして、又孫達も大きくなりま

したので当地の娘宅へ参りました。

只今私の仕事は務めをしています娘  
の家族の夕食の仕度が毎日の張合で  
す。娘もボケさせない為の親孝行と思  
って居るでしょう。

私も十一月で七十三歳ですが今は八  
十歳過ぎてても皆さんお元気ですから未  
だ老人顔はして居られません。身心共  
に健康で過す事が出来るよう頑張りを  
します。

〒280 千葉市千城台東一―二―203  
秋 元 方

(クエゼリン) 野 田 雅 子

一日も早くお便りさし上げなくては  
と毎日毎日思いながら仲々ペンをとれ  
ませんでした。忙しいとかいった事で  
はなく、戦死しました弟の小さい頃の  
事、小学生の頃等、それからそれと思  
い出が一杯になって何を書けばいいの  
か、わからなくなりました。

父が老年で出征しやと帰ってきま  
したら、弟は学校を出て就職したばか  
りでしたのに、専門が工科でしたので  
水戸の工兵隊に入隊。すぐ満州、漢江

と寒い時は北満に暑さのきびしい時は  
漢江に転戦、その後便りが跡絶えてし  
まい、戦死と知ったのは戦後も暫くし  
てからでした。

未だに死んだとは思えません。母も  
88歳（父は昭和38年に亡くなりました）  
た）になります。どんなにか淋しい  
事でしょう、子供達はなるべく母に悲  
しい思いをさせたくないので弟の事は  
あまり話をしなくなりました。

四、五年前までは上京して靖国神社  
にお参りに行きましたが、この頃は上  
京もむずかしく「大分」の地で何時も  
思んでいるとの事です。

ほんとうに優しく親しい弟妹思いの  
弟（長男）でしたので、同じ隊にいら  
した方々の名前でも分ればと思ったり  
しております。

とりとめのない事を書いて仕舞いま  
したが、今後絶対に戦争などない国で  
あってほしいと願っております。

〒359 所沢市上新井一〇六一―二五

(ブラウン) 松 下 綾

凌ぎよい気候となりました。  
皆様には色々のご多用の事と存じま  
す。

自己紹介させて頂きます。

主人は昭和十九年二月二十四日、マ  
ーシャル群島ブラウン島にて玉碎致し  
ました。私共主人の出征のため「チチ  
ハル」の北、訥訥より島根県に身を寄  
せ、三人の子供を苦勞の末一人前に致

し、現在長男51歳（名古屋）二男47歳  
（島根県）長女42歳（三崎）とそれぞ  
れ安定した生活をしています。

私も72歳になりました。定年後無理  
をしたのが出て病気がちになり57年三  
崎に来て娘夫婦の世話になっていま  
す。最近元氣を取りもどしましたので  
趣味を生かし、書道、踊、民謡とボケ  
防止もかね、老人会に入り皆々様と楽  
しい生活をしています。今は子供達に  
少しでも迷惑をかけない様健康に気を  
つけて過ごしています。

主人との思い出も数々有りますけれ  
ど満州での三年半の生活全部が忘れら  
れない思い出となりました。

お知らせをかね、益々お元氣で遺族  
会の永続発展をお祈りし宜しくお願  
い申し上げます。

〒238-02 三浦市岬陽町一九一五辻方

(クエゼリン) 草 場 マ キ

初めてお便り致します。

昭和十七年二月応召しましたあとに  
生まれた長男が只今は東京大田区に在  
住し孫が一人居ります。

福岡にて会社の寮母として昭和54年  
7月まで勤め後唐津に帰り残された家  
に主人の扶助料と私の厚生年金とで、  
子供に負担をかけずに過ごしております。

私に与えられた余生を少しでも楽し  
く過ごしたいと夢を追いかけています

けれど仲々納得出来ません。

只今檀家寺のご詠歌会にはいり年一回の総会出場のため稽古に励んでいますけれど思うように上達しません。

お陰様で身体は元気で子供達は上京するようになっていますが、外出ぎらいで孤独も又楽しからずやの感で躊躇しています。

こんな現状でおりますが、どなたかお友達を紹介して頂きたくも思います。直会旅行にも参加したいと思つては居るのですけれど。

気儘に書かせて頂きました。  
〒847 唐津市元旗町六四七—二

(タラワ) 奥山キノ

環礁の仲間の皆様お元気で過ごし  
の事と遠察致します。

今年には二十日も無事通過ほつとして居るところです。

二月総会で皆様の元気なお顔、いろいろなお話を伺うのが私の年中行事だと思つて居ります。

主人の玉碎した南の島タラワにも三度巡拝させて頂きました。計画された皆様に感謝の気持ち一杯でございませす。

最初三十三回忌の時は主人の部下で砲術学校に入学する為帰った方から島の様子や生活を伺つて居りましたのでそれを自分の目で確かめようと軽い気持ちで参加したら、帰る日になって袋に四つの遺骨を発見、次は慰霊碑と納骨

(南瀛の碑)三回目がマリヤ観音建立と

ほんとうに有意義な慰霊巡拝でした。最後に私にとって貴重な発見、主人が地下道を通つて司令部に勤務と言う言葉がどうしても納得出来なかつたのが建設省の方の計いでそれも発見、いろいろと私の思い出が増えて主人と私の心のパノラマがフル回転を致します。これも仲間の皆様のおかげと感謝申し上げます。

皆様お元気で又よろしくお願い致します。  
〒018-33 北秋田郡鷹巣町綴子字太田屋敷

(ルオット) 前田利明

父と別れて四十二年の歳月がたちました。行つた事もなければ勿論見た事もない島ですが、皆様のお話によりますと一里四方の小さな島と聞いて居ります。

命の有る限り一度はどんな事があつても行きたいと思つて居ります。

私は当時九歳であつたと記憶しておりますが、長い年月がたつうち、はっきりと思ひ出す事も出来なく思ひみても霞の中にあるようではがゆいばかりの此の頃です。

もし墓参が叶えられれば心の中一ぱいの父と話をしたいと思つています。

私の心中をお察し下さい。

私は命のあらん限り環礁を拝見させて頂きたいと思つて居ります。

会長様始め役員の方々大変でしよう

けれどいつまでもこの会の続きますよう、今後共よろしくお願い致します。  
〒920 金沢市四十万町2—355

(マロエラップ) 渋谷セキノ

暑中、お見舞い申し上げます。

又、忘れる事の出来ない終戦記念日がまいました。

あの島に此の島に若い命を散らして早や四十年、夢の間の年月が昨日の様に想ひ出されます。

第一回現地墓参に参加して、初めて南の島を見て歩いて肌感じた主人最後の島「マロエラップ島」私の命のある限りこの感激は生涯忘れる事は出来ません。

今一度墓参をと思つておりましたが健康上の都合で再度の募集にも参加出来ませんでした。

今は孫達と三世代同居、賑やかに毎日を送っています。

息子夫婦に甘えず自分の務として守るべきは守つて行き度いと思つています。ともすれば弱くなる自分の心を自分に負けない強い心を持ちつづけたいたいと思います。  
〒954 新潟県見附市細越2—10—11

(ウオッセ) 高橋克麿

(56歳)

① 教員、現在、宇都宮市立陽南中学

校に勤務。

② 61年のマーンシャル群島慰霊巡拝。サンゴ礁にくだける白い波と、エメラルドの海の色が今も目に浮びます

③ イラストによる世界の航空機の図鑑を作ること。  
八〇二海軍航空隊についての資料を集め、まとめること。

もう一度マーンシャル群島をたずねること。

④ 近い将来また現地慰霊巡拝を計画してほしい。

〒320 宇都宮市鶴田町二九二三—一

(ウオッセ) 吉田よね

今日からお彼岸に入り今迄一日おきにお寒かった日もやうやく脱皮し、明るい春の日差しに桜のつぼみも近くはころびかける事でしょう。

今年も手厚くお誘い下された慰霊の儀と、熱海伊豆山の直会旅行も母の二十三回忌の法事と一緒に残り残念ながら失礼を致しました。同じウオッセ島の北原ひで子さんも本当によかつたと繰返して仰つていました。  
来年は私も変り無ければ是非参加したいと存じます。

又直会旅行費用を御返金送付下さり本当にお手数かけた事お詫び申し上げます、お礼申し上げます。

〒338 与野市本町東2—12—2

( 2 頁よりつづく )

それは「詩」であると言つてよいだらう。紀元節の儀式唱歌に象徴されてゐる様な、国民の情緒と感性になつかしく訴へかけてくる、自分達の先祖の功業を偲んでの叙事詩的精神こそが、祝祭日制定の必要にして十分な根拠であると言つてよい。

( 仮名遣い原文のまま )

### 浮田名誉会長に感謝状

— 日本遺族会創立四十周年 —



日本遺族会 (前身は日本遺族厚生連盟) は昭和22年11月17日に創立され、当時の冷酷な軍事占領下にもかかわらず英霊の顕彰と遺族の福祉向上を、更に社会道義の確立、平和国家建設に寄与することを使命として真摯な努力を積み重ねてまいりました。

わが国の戦死者の遺族が、日本遺族会の活動によって量り知れない程の有形無形の恩恵に浴していることは皆様もよく御承知のとおりであります。

日本遺族会は去る9月29日、九段会館に関係者約六百人が参集、盛大な記念式典を行いました。その際、本会の

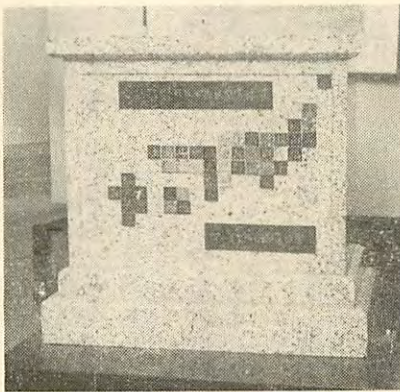
浮田名誉会長は永年日本遺族会の相談役として同会の運営、発展に寄与したことに對し感謝状及び記念品をおくられました。

### 遊就館拝観のおすすめ

靖国神社の遊就館には、明治初年以來の御祭神の貴重な遺品、史料等三万余点が収蔵されており、年末の12月28日から31日までの三日間以外年中無休で一般に公開展示されています。

遊就館の館名は、中国の書「荀子」の中の「君子は居るには必ず郷を扱ひ遊ぶには必ず士に就く」の中の二字を撰び、明治13年に命名されたもので、「高潔な人物に就いて交り学ぶ」意味とのことです。

心静かに荘重な館内の史料、遺品等を順次拝観いたしますと、御祭神の国家、同胞を思う健全、清純な殉国の精神がひしひしと胸に込み、靖国神社が



他の一般の神社と性格を異にし、国家の安泰と繁栄に直結している神社であることがしみじみ感得されます。

本会関係のものは、音羽正彦命の遺品と、クエゼリン島の慰靈碑の副碑 (写真・現地の正碑の1/8の大きさ) が

展示されており、逐次他の御祭神の遺品も展示されてゆくことと思われ、一人でも多くの方が靖国神社に参拝し、その都度遊就館を拝観してほしいと思います。

### ウオッセ島の写真帳

会友篠崎英夫様より寄贈される

篠崎様から本会に「鎮魂 ウオッセ島—第五三一海軍航空隊戦没者の霊に捧ぐ—」と題したカラーの立派な写真帳が寄贈されました。

篠崎様は、五三一航空隊主計長として、ウオッセ島に勤務し、20年10月離島に際しての再訪の誓いを果たすため、61年8月、同じ隊の遺族や隊員たちと本会の現地慰霊団に参加しました。

現地で見聞したことは、環礁46号5〜7頁に詳細に記されているとおり滞在時間の短かったにもかかわらず入念な事前の計画により、島内の要所要所を手わけをして訪ね、慰霊、調査、記録、撮影の作業を進めました。

その夜から記録の整理を始め、数千枚の写真の中から約百枚を厳選してまとめられ、約一ヶ年をかけて完成し、五三一航空隊関係の遺族と同隊の生存

者に無料で配布されました。

附録として、マーシャル諸島とウオッセ島の概要、戦歴図、第五三一海軍航空隊隊歴、同隊戦没者名簿等貴重な資料があります。

本会に寄贈された写真帳は当分の間本部事務所に置きますので、閲覧を希望する方は予め電話ご連絡下さい。

▲篠崎様の秘書のお話では、この写真帳は予め配布先を定めて必要の数だけ作成されたとのこと。▼

(ウオッセ) 高橋克磨 (自画)

昭和61年8月28日、ウオッセ島で戦死した兄の最後の地を見届けて帰路、マロエラップに立寄った。

滑走路の傍の椰子林の中に任務を終えた零戦が静かに横たわっていた。



### クエゼリンでお世話になった 方々へお礼

クエゼリン島に永く勤務され、本会の慰霊碑建立の際は献身的な御協力を頂き、その後は私どもに代って墓地の清掃や碑の維持管理、供花などを奉仕下さった方々が皆勤めを終えられて島を離れました。

その中の徳原 勇様、マイロン・アイ・ナカタ様、大里 清様の各御夫妻は只今ハワイに住んでおられます。

七月の本会役員会で、右の皆様は二十年來の御礼を申し上げることにになり八月四日に会長名を以て次のようにお礼を申しあげましたところ、御三方より夫々丁寧な御挨拶を頂きました。

(本会会長より御三方御夫妻へ)

拝啓

あこがれの世界の楽園ハワイにお幸せな毎日をおすごしのこととお慶び申し上げます。

あなた方始めクエゼリンの皆様と私どものおつき合いは、昭和四十二年に浮田さんと佐竹さんが会を代表して各島々の調査と慰霊に行ったとき以来ですから、もう二十年にもなります。

その翌年には、日本からマリンシャルギルバート全域の慰霊碑をお送りしてクエゼリン島に建てて頂きましたが、この時は皆様始め官民の絶大な御協力

のお陰で私どもが予想していた以上に立派に仕上げさせて頂きました。

その後は、碑の周辺の清掃や、柵や鳥居の塗り替えから時には、ハワイからのお花を供えて頂くなど数々のお世話を頂きました。又、幾度か慰霊団が参拝した時は心のこもったおもてなしにあずかりました。

思えば二十年もの間数えきれない程の御恩をうけてきたことでした。

過日の本会役員会で、長い間お世話になった皆様にお礼を申し上げることが決議されましたので、ここに、全会員を代表し、永年の御厚情に対し、心から厚く御礼申し上げます。

長い間ほんとうにありがとうございました。

次に、記念の意味で、ささやかな品ですが、セイコーの世界時計をお贈りしたいと思えます。

クエゼリン、そして日本を偲ぶよすがとして、又、私どもの感謝の印として御受納下さいましたら幸せて御座います。

太平洋での不幸なできごとは遠い昔のことになり、戦争を知らない人は国民の半数以上になりました。

戦死者の遺族も次第に数少なくなつてゆきますが、私共は国民の身替りとなって散華された英霊への慰霊は何時迄も続けていきたいと念願しております。

今後とも相変りませず御厚誼の程を

お願いいたします。  
日本においてにられますときは、事前に御一報頂けましたら幸いに存じます。

御両人様が、何時までも御健勝であられますよう心からお祈り申し上げます。  
敬 白

昭和六十二年八月四日

(徳原 勇様・徳子様より)

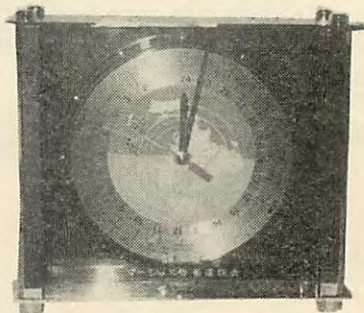
佐藤様

一昨日は佐藤様から久しぶりのお便り、そして昨日は、セイコーの世界時計を受け取りました。初めて見る立派な精巧な時計に私共は感激致しました。

はじめにお目にかかってからもう二十年もたったとは、一寸驚きですが、その間貴遺族会の方々はよく団結なさって努力されたことに敬服しております。私共のささやかなお手伝いが、み



徳原様御夫妻



お送りしたセイコーの世界時計

のったことはこの上ない喜びです。さて、先日佐竹様にお知らせしましたとおりアンテリアム(ハワイ特産の花)をジョージ・ラムさん(クエゼリンに勤務中の中国系の人)に託してお墓に供えていただきました。

お盆に間に合わなかったのは残念ですがこれからも不定期ながらクエゼリンの友人たちがホノルルに来る度にお花を供えていただきます。

クエゼリンで働いていた人たちが一人ずつ引退して墓地の管理が出来なくなるのは残念なことと私共もいつも思っていました。しかしまたお役に立てることは嬉しいことです。

会員の皆様によりしくお伝え下さい  
(1987年8月12日)

《追記》 徳原様から、右の文の中のジョージ・ラムさんが撮った墓地の写真が送られてきました。

本会の幹事高林芳夫さんがハワイ旅行にゆかれたので徳原様に会って頂き

いろいろ有益なお話を伺ってまいりました。写真は9月13日に撮らせて頂いたものです。

(マイロン・アイ・ナカタ様  
御夫妻より)

合 掌

佐藤さんからの手紙頂きました。

クエゼリンミサイル基地での私の仕事についてお心づかい頂いて有がとうございます。私達が南洋であなた方の為にお手伝いしたのは、ただ単に私達が多少日本語が出来るからという事で司令官に命令され、その義務を果しただけだと思います。私達の真心で今まで来られたと思いますがお役に立てた事は光栄に思っています。

初めて浮田さんと佐竹さんに会った時、当時クエゼリン、ルオット島に上陸を許されなかったので、イバイの小さな島で会いましたが私は本当に心細かったです。戦争に負けるとこんな目に会うのかと思いました。

その後立派な碑を作られて、皆さんと一緒に写真を写した時は嬉し涙がこぼれました。これ程まで先祖を大切に人達が日本に住んでいたのでした。将来きつと花の咲く日が来るとその時感じました。

佐藤さんの手紙にもありました様に現在の日本は苦勞を知らない人が多く先祖を大切にすることが多分わからない

のでしょう。この様にしていれば、暗い世の中になってしまいうでしょう。昔の明治、大正時代の人間の様にならないと道は開けない様に思います。自我を捨て無我になって初めて神の子になります。油断をすれば邪の神に使われます。極楽も地獄もすべて己の心の持ち様一つであると思います。お元気に気を楽に愉快にお暮し下さい。

私は今、引退してカイルワで島仕事や読書や又、家の近くの浜辺を散歩したりしています。もっといろいろしたいのですが、そうするには私の健康が許しません。体の動きが鈍くなり時々呼吸をすると胸に痛みを感じる事があります。私は医療保険に入っています。が外科手術を受ける気はありません。私の友達とった方法(手術をうけたが思わしくない)はこころみるに値するとは思いません。私はもう74歳なので85歳まで生きられればそれで幸せです。将来私がどうなるかは神様だけが知っています。私にとって生と死は一つであり同じものです。私達は精神的には決して死なないと信じています。

セイコーの世界時計届きました。どうも有がとうございました。クエゼリンにいる間や、何回も日本を訪れた時に日本の人達が私に對して下さった親切で私は充分報われているのに、御心配をかけてすみません。

時計を見ながら、色々昔の楽しかった事、嬉しかった事を思い出しています。

ナカタ様御夫妻



す。マインシャル方面遺族会の皆さんの真心を頂きます。皆さんにお礼を言っ下下さい。

合 掌

(1987年8月13日)

(大里 清様・マサエ様より)

ハワイでは毎日のように暑い日が続いていきます。

その後皆様お元気でしょうか。

このたび立派な時計をおくってもらいまして本当にありがとうございます。すぐにお礼のお手紙出すつもりでしたがとうとう今日になりました。

私達も、まだ二年ほどクエゼリンにいたかったのですが母が年ですから帰って来ました。

母は二月で百歳になりました。当時は未だクエゼリンに在住しておりましたので、一週間の休みをとりホノルルに帰りハワイ島ヒロで大きなパーティーをしてあげました。最近は大分よわっ

て来たようです。

ホノルルに帰ってからは忙しくて、又いつ日本に行かれるか分りません。

清さんもクエゼリンにいた時は毎日仕事を覚えてまわるだけでしたが、今ホノルルに帰りまして毎日、日曜日まで息子の仕事を手伝っています。六時半まで仕事をします。もう七十五歳になりましたがまだ元気です。

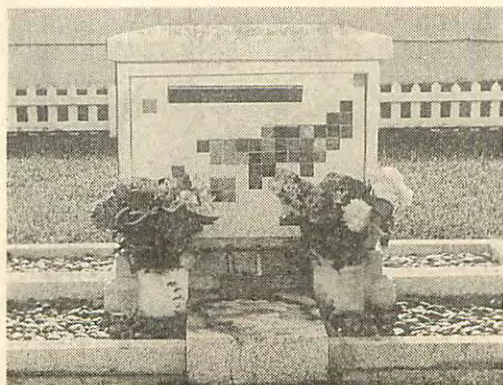
では遺族会の皆様にくれぐれもよろしくお伝え下さいませ。

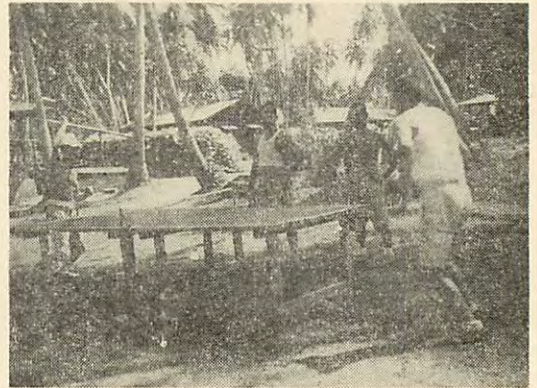
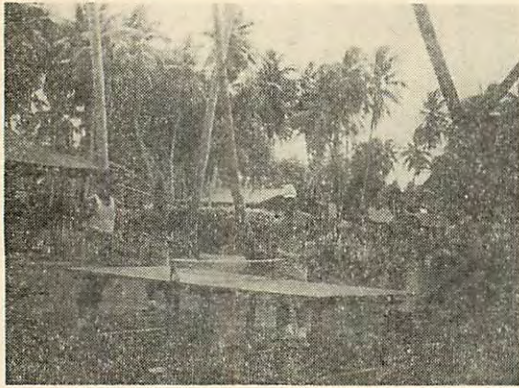
(1987年9月18日)

お花がいっぱい

クエゼリンのお彼岸

徳原様がハワイから空輸し、クエゼリンのジョージ、ラムさんにお供えしていただいたお花。撮影もジョージ・ラムさんです。





①  
→

②  
←

### 戦地からの便り

(ルオット)

鈴木 つな子

主人鈴木兼三(七五五海軍航空隊付整備兵曹長、19・2・6ルオットで玉砕)は、霞浦航空隊東京分遣隊から、18・8・15横須賀を出港して南方に向かいました。

手紙は紙が損んで判読に苦労していますので、兵舎のスケッチと写真をお目にかけます。ルオットがあのようになる少し前のものです。

写真はネガを作りましたのでほしい方にはさしあげます。



③  
→

(〒153 目黒区上目黒3-14-23)

ます。

写真 ① 兵舎前の空地でピンポンに興じている四人。

② 同じところ、五人居ます。ランニング姿の方は霞ヶ浦航空隊東京分遣隊から来た方

由。

③ 向かって左は主人鈴木です。

スケッチの文字は、次のように読め

椰子林の中の我家はお粗末なものです。任めば都と言ふ言葉なぞ？？？

日本語で啼くニワトリのにくらしさ。

土人の鳥のくせに日本語で鳴くニワトリ  
目黒を思い出して仕方がない



本部だより

○会員名簿を作ります。

会員大ぜいの方々からの要望により63年1月1日現在を以て会員名簿を作ります。

会員どうしのお互の交流にお役立て下さい。

会費未納の続いている方と、音信不通の方については、心ならずもこの際整理させて頂き、名簿にのせないことになりましたので悪しからず御了承下さい。会費を納めていらっしゃる方には名簿を各一冊宛無料でお送り致します。名簿の発送は五月末の見込みです。

名簿には、本会の歴史上貴重な写真等ものせることにしています。

同封した私製はがきの表面へ名簿の原稿に『郵便番号 住所 会員の氏名 電話番号 戦歿者からみた続柄 戦没場所』を楷書ではっきりとお書き下さい。

○ハワイのお三方の住所

ハワイ在住の徳原様、ナカタ様、大里様の住所は次のとおりです。

お便りは漢字で結構ですが、ナカタ様にはすべての文字に片仮名でフリガナをして下さい。英文ならば尚結構です。

Mr. & Mrs. Isamu Tokuhara  
1928 Young St. F  
Honolulu Hawaii 96826  
U. S. A.

Mr. & Mrs. Myron I. Nakata  
812-B N Kahaheo Kaihala,  
HI. 96734  
U. S. A.

Mr. & Mrs. Kiyoshi Osato  
426 Lanipua St.  
Honolulu 96825  
U. S. A.

○タラワの慰霊碑のその後

クエゼリンの碑の現況は本号でよくおわかりのことと思います。

タラワの慰霊碑は、同島在勤の新藤岩男様(本会の篤志会員、国際協力事業団専門員)が常に気をつけて下さいます。クエゼリンと違い人の出入りの多い平和公園内にあるため、保全の対策をベンチオ役場と協議して頂き、約五百坪の公園の周囲を金網で囲むことになりました。

新藤様には、設計、見積り、工事の監督までもおねがいし大層お骨折りを煩しましたが、この程完成した旨のお知らせを頂きました。

南瀛の碑とマリア観音の周囲にコンクリートの枠を組み、碎石を敷いたために一段と風格が整った由です。

寄付者芳名

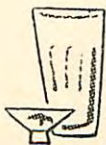
(敬称略)

次の会員及び会友の皆様は年度会費を完納された上更に慰霊奉賛のため浄財を御寄付下さいました。厚く御礼を申し上げます。

今後とも本会の永年存続のため何分の御協賛を切にお願い申し上げます。

- ◇北海道 伊藤 フジ 沼山長一郎
- ◇秋田県 相馬 ツキ
- ◇栃木県 吉川 芳蔵
- ◇群馬県 森 ゆき江
- ◇埼玉県 秋本 英郎
- ◇東京都 小島八重子 中村喜久代
- 野口 ウラ 三ツ木正次
- 矢野 雄三 佐藤 宗丕
- 稲村 かつ 田中トメノ
- 松下 綾 中村 サダ
- 近藤 茂 松岡 イキ
- 藤田 ヨリ
- ◇石川県 前田 利明 三納 初子
- ◇長野県 綾部はつゑ 滝沢 牧江
- ◇岐阜県 山田 八重
- ◇静岡県 後藤 行雄
- ◇京都府 中川 修 八木 きよ
- ◇大阪府 馬場富美子
- ◇兵庫県 山形 雅俊
- ◇鳥取県 井上 照美
- ◇岡山県 浜田 敦江
- ◇広島県 奥井 礼子
- ◇愛媛県 大塚喜久雄 長岡 俊夫
- ◇高知県 野島 貞人 近藤 幸恵
- 浜田喜次郎

計は四十九万二千円であります) 以上は62年6月1日から62年9月末日までに入金された四十九名で、金額の合計は四十九万二千円です。寄付者芳名は10月末までの分を1月1日号に、5月末までの分を7月1日号に掲載しておりますが、本号からは環礁編集作業の都合で、9月末と4月末で区切ることになりました。今回は高額寄付者がありましたので平均額が高くなりました。



(一頁直会旅行会のつづき)

乗物 往復とも豪華な大型観光バス  
宿泊 山梨県、石和グランドホテル  
電話〇五五二一六二二二二一

費用 小学生以上一泊二食付 14日と  
15日の各昼食、バス代、見学料  
とも一人につき 二万二千元

申込 一月十五日迄に住所、氏名、年  
齢、性別を記入し代金を添えて  
本会にお申込み下さい。申込み  
順に受けつけて五五名を以て締  
切りです。同室ご希望は出来る  
限り考慮致します。

本会が受取った申込みは旅行主催会  
社に取りつぎ、主催会社から申込者全  
員に旅行に参加できるか否かを一月末  
迄に通知します。

申込みの後の取消し、変更等は速や  
かに左記主催会社に通知して下さい。  
取消しの際は先ず、同社に電話をし、  
別にはがきを出して下さい。又、本部  
にもその旨をお知らせ下さい。

旅行主催会社

〒100 東京都千代田区丸の内一―六

日本交通公社東京本社内支店

営業第二課(係 池上・渡辺)

(電話03―二八四―七六二三)

コース等

慰霊祭と総会の終了し  
た正午頃、スケルトンタイプのデラッ  
クスバスは、お弁当などを積みこんで

靖国神社を出発し、首都高速、中央高  
速道を富士山に向って一路甲州に向い  
ます。

石和温泉発祥の地、石和グランドホ  
テルのサービスはきつと皆様に御満足  
頂ける筈です。神経痛、胃腸病、肩こ  
り、疲労回復などに特効あるといわれ  
る温泉にたっぷり浸ってから、本会な  
らではのなごやかな直会となります。

豪華な料理、想い出話、お国自慢の歌  
や踊りで楽しい一と時を過していただ  
きます。

翌15日はゆっくり朝湯を満喫して、  
10時ホテル出発、甲府駅近くの山梨宝  
石会館で世界の宝石の数々に目の保養  
をいたします。即売場には家族へのお  
みやげ好適品もあります。

武田神社は武田一族の居城つづしが  
崎。「人は石垣、人は城……」の意味  
がうなづけます。近くの護国神社に詣  
でてから護国会館での中食となりま  
す。本格派の精進料理は絶賛疑いなし  
と確信しております。

塩山の恵林寺は、天正十年武田家滅  
亡に殉じた快川国師の「心頭を滅却す  
れば火も亦涼し……」の語が思い出さ  
れます。風林火山の旗はか武田家縁り  
の宝物が沢山あります。夢窓国師作と  
いわれる庭園は皆様御存知のとおりわ  
が国代表的な名園の一つです。

東京駅帰着は午後六時の予定ですが  
車の渋滞が予想されますのでお帰りの  
キップは一時間位の余裕をみて御用意

謹賀新年

昭和六十三年元旦

◎ 本会役員及び篤志会員

名誉会長	浮田信家	篤志会員	石井清
顧問	栗林徳五郎	同	大野克一
相談役	朝香孚彦	同	木ノ下甫
会長	佐藤宗丕	同	ジョン・ウイリス
副会長	佐竹エス	同	新藤岩男
常任幹事	田中雄吉	同	瀬沼光久
同	荒木常子	同	土屋太郎
同	石谷典夫	同	徳原徳子
同	黒川誠	同	西村祐造
同	高橋功	同	長谷川栄次
同	高林芳夫	同	長谷川敏
同	山口良二	同	本埜和昭
同	柴崎晃	同	松平永芳
同	高橋鎮夫	同	村瀬松雄
同	秋本英郎	同	森山喜久雄
委員		同	山村要
同		同	横溝幸四郎

下さい。

念のため再び申しあげます。申込み  
は一月十五日迄となっておりますが、  
希望者がバスの座席の数に達した時は  
その時点で締切らせて頂きますので、  
申込みはなるべくお早くお願いいたし  
ます。

当日のお申込みはお受けできないと  
思われます。

本部

〒103 東京都中央区日本橋

人形町一―八―二

マーシャル方面遺族会

電話〇三―六六一―八七六〇番

FAX〇三―六六一―六二四一